

# 体験活動プログラムについて



「子ども達のかとなる体験活動にしたい」と考えていませんか？

あるいは、体験活動プログラムを企画する時に「昨年と同じでいいかな」「どんなことをしたらよいか分からない」と悩んだことはありませんか？



英彦山青年の家では、これまでの調査研究の成果を生かし、研修団体の目的に沿った体験活動やキャンプのモデルを提供しています。

**より効果のある研修計画を立ててみませんか！**

研修計画を作成するときには、研修者にこんな力をつけたいというはっきりとしたねらいが大切になります。このねらいを達成するために体験活動を行うことになります。

体験活動とは、実体験を通して経験する活動のことです。人はいろいろな感覚を働かせたり、それらを組み合わせたりして事物や事象にかかわり、学んでいきます。活動後にふりかえり等を行い、活動の意味づけをすることが大切です。

ねらいを達成するための視点



## 活動の教育的効果とねらい達成のヒント

### 1. コミュニケーション能力とは・・・

☆「場や相手を意識しながら自分の考えや思いを伝えようとする力」「相手の話を正しく聞き取る力」「相手の立場になって考えることのできる力」「自ら挨拶できる力」と考えます。

\*ねらいを達成するためには、アイスブレイクゲーム等により、集団の中の人間関係をよりよくすることが大切になります。プログラムの作成に当たっては、仲間作りの視点を取り入れることが必要になります。そのためには、・グループ活動を積極的に取り入れる・性別、年齢（学年）、体験活動の経験値等を考慮してグループ分けを行う。等に配慮する必要があります。

\*活動をとおしてねらいを達成していくことになるので、活動中には理想的な形にはならないことが多いことを理解しておきます。すべての研修者やグループ、班が同じような結果になることはありません。

### 2. 自分のことを自分でする力とは・・・

☆「自分で判断し、見通しをもって取り組む力」「自分の力でやり遂げる喜びを感じ取れる力」と考えます。

\*ねらいを達成するためには、活動の中で役割分担を行い、責任のある仕事を任せることが大切です。また、登山などの自分の力でやり遂げるような活動を取り入れることも必要です。

\*生活体験のルールに沿って生活させることも大切になります。

\*個人での活動とグループでの活動を取り入れることが大切です。個人だけの活動では良い効果は期待できません。

\*ねらいを達成するためには、研修者の状態を団体の指導者が把握している必要があります。初めて出会う集団なのか、つながりがある程度あるのかによって、活動の展開の方法は変わってきます。

### 3. 何事にも最後までやりとげる力とは・・・

☆「目標を把握して取り組む力」「筋道を立てて取り組む力」と考えます。

\*ねらい達成のためには、活動に入る前の導入の段階で活動の目標を確認し理解させることが必要です。また、活動の進み方などの時間を意識させて取り組ませることが大切になってきます。

\*最後までくじけずにやりとげさせるためには、グループでの支え合いが大きな力を発揮します。グループ割の方法も大切です。

\*登山等の多少負荷のかかる活動を取り入れると効果的です。

\*ねらいを達成するためには、研修者の状態を団体の指導者が把握している必要があります。初めて出会う集団なのか、つながりがある程度あるのかによって、活動の展開の方法は変わってきます。

### 4. リーダー性とは・・・

☆「相手の意見や考えを聞く力」「意見や考えをまとめる力」「自分の考えを表現する力」「周りとの協調できる力」と考えます。

\*ねらいを達成するためには、グループでの活動を多く取り入れ、一人一人が自分の責任のある仕事を分担し、考えを伝えられるようにすることが大切です。

\*社会性を育てる活動を取り入れると、自分自身をふりかえらせることができ、効果的です。活動全体を通して、指導者の研修者に対する声かけが大きな自信につながるがあるので、努力したことに対しては認めてあげることが重要です。

\*効果を上げるためには、活動後のふりかえりが必要です。必ず、ふりかえりの時間を設けましょう。

### 5. 自己をふりかえり、集団を見つめなおす力とは・・・

☆「自己や集団の高まりを感じ取れる力」「友達の良さを見つけ認める力」と考えます。

\*ねらいを達成するにあたっては、グループでの活動を多く取り入れ、活動ごとのふりかえりの時間と1日を通してのふりかえりの時間の設定が必要となります。

\*アイスブレイク等の集団化や社会化を図る活動を取り入れると効果的です。

\*活動をとおしてねらいを達成していくことになるので、活動中には理想的な形にはならないことが多いことを団体の指導者は理解しておきます。すべての研修者やグループ、班が同じような結果になることはありません。

### 6. 自然に親しみ、環境について考える力とは・・・

☆「自然の良さを感じる力」「自然を大切に思い、環境を大切にしようとする力」と考えます。

\*ねらい達成にあたっては、自然に親しむ活動を多く取り入れることが必要です。活動後にはふりかえりの時間を保障し、意見交流をすることにより、一人一人の考えを広げることが大切です。

\*森あそび、ナイトウォーク、星空観察等の活動を取り入れると効果的です。登山を行う時には、英彦山の自然と歴史の講話を事前に行くと、登山での目標が明確になり、より効果が望めます。

\*野外での活動を多く行う時には、活動を詰め込みすぎてはいけません。研修者の体調を考え、ゆとりを持った研修プログラムの作成が大切になります。